

るために中国、韓国、ベトナムへ輸出しているが、多くは処分困っているというのが現状で、肥料や土壌改良剤にしたり、アスファルトや漁礁を作るときにコンクリートに混ぜたりとさまざまな方法を模索しているが、決定的な活用方法はまだ確立していない。貝殻は産業廃棄物になるため、生産者が処分代を負担している。

#### 4. 販売促進のための取り組み

##### (1) 真珠の価値を決める6つの要素

###### ①巻き

巻きが厚いものほど価値が高い。(肉眼では分からないが、X線等を使えば測定できる)

###### ②表面の照り

最も重要である。(照りがいいモノほど、輝いている)

###### ③色あい

アコヤ真珠(ピンク、ホワイト、ブルーなど)、南洋真珠(ブラック、ホワイトなど)、淡水真珠(ホワイト、パープル、オレンジなど)

###### ④形

ラウンド(丸)、セミラウンド(少し変形)、バロック(変形)

###### ⑤表面のキズ

キズ(えくぼ)の少ないものほど価値が高い。

###### ⑥サイズ

アコヤ真珠(3~9mm)、黒真珠(8~16mm)、南洋真珠(8~15mm)、淡水真珠(3~10mm)

##### (2) 上質の真珠を生産するために行っていること

核入れのための貝仕立てや挿核技術も欠かせないが、上質の真珠を作る上で一番重要なのは漁場の良し悪しである。それにはいろいろな自然要素(プランクトン量、潮の流れ、水温等)が加味されており、過去の実績から良い漁場というところもあるが、そこも去年良かったから今年も良いということが必ずしもいえないところに漁場選択の難しさがある。

今の養殖業者の技術は成熟しているので、漁協・漁連が技術的な指導をすることはほとんどないため、品評会

で良い成績を収めた人の成功事例やオゾンを使った貝仕立ての方法等の発表会・報告会を開いている。

##### (3) 真珠の新たな活用方法(新商品)の検討

###### ①宇和島の試み

「宇和島産真珠」と「真珠のまち宇和島」を広く国内外にPRするという目的で2007年から「宇和島パールデザインコンテスト」を実施して真珠のオリジナルデザインを募集しているが、定番の真珠製品(ネックレス、ペンダント、ブローチ、リング等)だけでなく、もっと真珠を大量に消費する新たな活用方法は考えられないか。

###### ②真珠製品のいろいろ

宇和島は真珠のまちといわれているが母貝と真珠の生産が中心で、一次加工業(珠の穴あけ、漂白・シミ抜き・調色などの処理をする)や二次加工業(一次加工された珠をネックレス、指輪、ブローチなどに仕上げる)は、あまり行われていない。

宇和島産真珠の多くは神戸などの一次加工業が盛んに行われている地域に販売されるため、その時点で「宇和島産真珠」の名前は消えてしまう。

地元では、宇和島真珠のブランド化に向け、様々な試みが行われている。

##### (4) 販売を拡大させるための取り組み

①「宇和島パールデザインコンテスト」(①~⑥の主催は、宇和島地域ブランド化推進事業実行委員会)

宇和島真珠と「真珠のまち宇和島」を広く国内外にPRすると同時に、デザインを重視した「宇和島真珠オリジナルブランド」の確立を図るため、真珠を使ったジュエリーや小物などのオリジナルデザインを全国から募集している。応募部門は、各部門とも和珠1つ以上の使用を想定した作品であること

第1部門 パールジュエリー(AとBの部門がある)

A:パール+貴金属、貴石の組み合わせ

B:パール+異素材との組み合わせ自由

第2部門 オン・ザ・テーブル、クラフト、ギフト

第3部門 自由部門(上記2部門以外の作品)